

平成21年度優秀畜産表彰中央情報交流会を東京で開催

平成21年度優秀畜産表彰中央情報交流会が17日、「みんなに応援してもらえ畜産を！」をテーマに東京都千代田区大手町で開催された。同交流会は(社)中央畜産会(会長 小里貞利)が主催するもので、現在の農業・畜産における問題点。また食の安全・安心の確保につながる生産情報の開示、銘柄化、流通・消費との連携などに取り組んでいる事例を紹介し、国民に理解・支持される畜産の展開方向を探ることを目的に開催された。

交流会の冒頭、主催者を代表して(社)中央畜産会の菱沼毅副会長があいさつ。続いて基調講演に移り、(株)農林中金総合研究所の野村一正顧問から「国民に理解され、支持される畜産の展開」について講演。また話題提供として、飛騨ミート農業協同組合連合会(平成20年度地域畜産振興部門 優秀賞)川植義彦代表理事常務より「地域に夢と希望をもたらす飛騨食肉センターの活動」。JA庄内みどり営農企画部遊佐営農課山形県遊佐町飼料用米プロジェクト(平成20年度地域畜産振興部門 最優秀賞)佐藤秀彰総括課長から「こめ育ち豚で広げる水田農業と消費との輪」。(株)全農チキンフーズ総括部生産管理チームの近藤公夫リーダーから「種鶏から国産、生・流・消が一体で取り組む肉用鶏はりま」。生活クラブ事業連合会生活協同組合連合会の加藤好一会長より「流通・消費の立場から国産に期待すること」と題して、それぞれ講演が行われた。

MCGがマカオ向け牛肉輸出計画申請―10月にも認可か

(株)アグリ・ワン和光ミートセンター(埼玉県和光市、阿部徳次社長)は16日、埼玉県食肉衛生食肉検査センターを介して埼玉県にマカオ向け牛肉輸出の申請書を提出した。厚労省には埼玉県を通じて申請書が提出されるが、申請書提出順では宮崎に続いて2番目の提出になりそうだ。

アグリはミートコンパニオングループ(MCG 阿部昌史社長)のと畜・カット部門の企業であり、今回の輸出販売はミートコンパニオンが担当するが、既に東京都の協力会社の協力によりマカオの事業者との交渉により、10月中旬に現地への具体的な対応を推進する方向で申請作業等の計画を進めている。申請計画によると、アグリ・ワンで処理された和牛Aの5、4、3と交雑牛A3のロースを、月間2000頭分を目指している。MCGでは「アグリで製造した高級部位を輸出することで、冷え切った日本の牛肉需給関係の改善と価格の下落に少しでも歯止めが掛け、再生産可能な健全市場の確率と活性化を図りたい。また日本の畜産物が海外で高く評価されることで生産農家の励みになるため、これまで市場調査をしてきたが、輸出が解禁となったので輸出申請を上げた」(植村常務)という。なお、17日現在ではマカオ向けは輸出されていない。